

認知症観の社会経済的規定要因と経済的含意に関する研究

研究分担者 角谷快彦 国立大学法人広島大学 大学院人間社会科学研究科 教授

研究要旨

本研究では、人々の認知症観が老後不安等の経済的側面にどのような影響を及ぼし得るか、また社会経済的属性が認知症観の形成にどのように関連しているかを明らかにすることを目的とした。当該年度は、老後不安要因を社会経済学的に考察した関連論文を公表するとともに、認知症観を被説明変数とする全国規模の家計調査を設計・実施し、今後の実証分析の基盤となるデータを収集した。これにより、認知症観と経済的要因との相互関係を分析するための基礎を整備した。

A. 研究目的

認知症に対する認識や不安は、医療・介護のみならず、家計行動、老後生活設計、将来不安の形成にも影響し得る重要な要素である。本研究では、人々の認知症観が経済的側面に及ぼし得る影響を検討するとともに、年齢、性別、学歴、所得、資産等の社会経済的属性が認知症観の形成にどのように関与しているかを明らかにすることを目的とした。これにより、認知症政策および関連する情報提供・啓発施策に資する基礎的知見を得ることを目指した。

B. 研究方法

関連する先行研究を整理した上で、認知症観と老後不安、社会経済属性との関連を検討するための分析枠組みを構築した。あわせて、人々の認知症観を把握する全国規模家計調査を設計し、認知症に対する見方、不安、社会経済的属性等を測定する設問を整備した。その後、当該調査を実施し、今後の実証分析に用いるデータを収集した。また、老後不安要因に関する既存研究を社会経済学的観点から検討し、関連論文として取りまとめた。

（倫理面への配慮）

本研究で用いた調査の実施に当たっては、所属機関等の定める倫理指針・関連規程に従い、必要な手続きを経た上で実施した。調査対象者に対しては、調査目的、回答の任意性、個人情報保護等について適切に説明し、プライバシーにも配慮した。

C. 研究結果

当該年度においては、第一に、老後不安要因を社会経済学的観点から検討した関連論文を公表した。当該研究では、個人の将来不安や社会経済的背景が老後不安の形成に関与することが示唆された。第二に、人々の認知症観を被説明変数とする全国規模の家計調査を設計・実施し、社会経済的属性、将来不安、認知症に関する意識等を含むデータを収集した。これ

により、社会経済的属性が認知症観に与える影響、および認知症観が経済的側面に及ぼし得る影響を検討するための分析基盤を構築した。

D. 考察

認知症観は、健康認識にとどまらず、将来不安や老後生活設計といった経済的側面と密接に関係する可能性がある。また、認知症観そのものも、個人の年齢、教育、所得、資産などの社会経済的条件によって形成されと考えられる。本年度に収集した全国規模調査データは、こうした双方向の関連を検証する上で有用であり、今後、認知症政策における情報提供や啓発の対象層を精緻化するための実証的基盤となることが期待される。

E. 結論

本年度は、認知症観の社会経済的規定要因と経済的含意を検討するための理論的・実証的基盤を整備した。今後は、収集した全国規模家計調査データを用いて、社会経済的属性が認知症観に与える影響、および認知症観が老後不安や関連する経済行動に与える影響を定量的に分析する必要がある。これにより、認知症に関する国民理解の改善や、関連政策の形成に資する知見を提示したい。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし